

各 位

平成18年11月14日
東京都港区元赤坂一丁目5番8号
株式会社 WOWOW
代表取締役社長 廣瀬 敏雄
(コード番号: 4839)
問合せ先 IR広報局長 高見澤尚樹
TEL03(5414)8090

平成19年3月期（2006年度）中間決算のお知らせ

弊社は本日（11月14日）開きました第161回取締役会において、平成19年3月期（2006年度）中間決算（平成18年4月1日～平成18年9月30日）を確定いたしましたので、お知らせいたします。

詳細は別紙の通りです。

平成19年3月期（2006年度）中間決算に関するご説明

① 平成19年3月期（2006年度）中間期の加入状況

- a. 当中間期において、当社グループの業績に影響を与える個人消費動向は引続き力強さを維持しながら推移し、デジタル家電関連の需給関係は、販売価格の低下も手伝い、好調さを維持しております。特に、アテネ五輪に端を発しましたプラズマテレビや液晶テレビなど、薄型デジタルテレビの販売状況も引き続き活況を見せ、地上・BSのデジタル放送視聴世帯が大幅に増加し、本年9月末時点ではBSデジタル放送の普及台数も1600万台を突破しました。このような状況下、当中間期における当社グループの加入推進は、全てのデジタル放送受信機器に同梱されているB-CASカードの新機能を用いた「7日間お試し視聴」を中心に行いました。また、複数台の保有が顕著となってまいりましたデジタル放送受信機器への対応として、デジタルWOWOWの2契約目を40%割り引く「デジタルダブル」キャンペーンも実施いたしました。これら施策の認知度を一層高める施策として、タレントの明石家さんまを昨年度に引続き広告・宣伝に起用し、大型番組などの訴求を併せて行いました。
- b. その結果、当期の新規加入者数は、202,361名（前年同期比49.5%増、内BSデジタル162,874名）、解約者数は196,025名（同9.0%増、内BSデジタル82,400名）となり、新規加入者数から解約者数を差し引きました正味加入者数は6,336名の増加（前年同期に比べ50,828名の改善）となりました。
- c. また、アナログ契約からデジタル契約への移行者数は71,087名[前年同期比9.2%増]でした。
- d. 従いまして、当期末の累計正味加入者数は2,388,679名（同1.2%減、内デジタル984,256名）という結果となりましたが、デジタル加入者が前年同期に比べ281,030名増加し、全加入者数に占める割合が29.1%から41.2%となり、着実にデジタル化が進展いたしました。

② 平成19年3月期（2006年度）中間期業績状況

- a. 連結の業績につきましては、累計加入者数の減少による視聴料収入の減少を連結子会社の外販収入の増加および単体の付帯事業収入等で補い、営業収益は333億13百万円と、前年同期に比べ13億11百万円[前年同期比4.1%増]の増収となりました。また、営業費用は312億72百万円となり、代理店手数料、広告宣伝費は減少したものの、大型イベントの事業費の増加などにより、前年同期に比べ9億84百万円[同3.3%増]の増加となりました。その結果、営業利益は20億40百万円[前年同期に比べ3億26百万円増]となりました。営業外損益で持分法による投資利益59百万円、為替差益3億84百万円などを計上したことにより、経常利益は25億16百万円[同16億42百万円増]となりました。中間純利益は、特別損失8億15百万円の計上により13億92百万円となり、前年同期に比べ8億57百万円の増益となりました。
- b. 一方、単体の業績につきましては、累計加入者数の減少による視聴料収入の減少を付帯事業収入の増加で補い、営業収益は308億85百万円と、前年同期に比べ1億60百万円[前年同期比0.5%増]の増収となりました。また、営業費用は大型イベントの事業費の増加などにより、294億15百万円と前年同期に比べ3億87百万円[同1.3%増]の増加となりました。その結果、営業利益は14億69百万円[前年同期に比べ2億27百万円減]となりました。営業外損益で為替差益3億84百万円などを計上したことにより、経常利益は18億98百万円[同1億50百万円増]となりました。中間純利益は、特別損失8億15百万円の計上により10億75百万円となり、前年同期に比べ3億39百万円の増益となりました。

③ 平成19年3月期（2006年度）通期予想

- a. 1600万を超えたデジタル受信機の普及は、価格低下により需要増加にさらに拍車がかかるものと見込んでおります。当社は、このようなデジタル放送の市場拡大を追い風に、「7日間お試し視聴」という営業施策を中心として、さらなるデジタル契約加入獲得の促進に注力してまいります。この施策を成功させる為に、映画、ステージ、音楽ライブイベント、海外ドラマなどの番組を連動させ、1週間ごとの企画編成を引続き行ってまいります。また、年末の新規加入ピークに合わせた編成上の年末年始特別企画を行い、体験から契約獲得へという流れをさらに構築すべく事業を展開してまいります。また、中期経営戦略において掲げました衛星放送以外の他伝送路への取り組みにつきましては、2006年12月1日のサービス開始を目指し、株式会社スカイパーフェクト・コミュニケーションズが運営する東経124度及び東経128度通信衛星を用いたCSデジタル放送へ番組提供を行う予定となっております。前述の施策を着実に遂行するとともに、諸経費の見直しと業務の合理化などを引き続き実施しながら、業務を推進してまいります。以上により、期末累計正味加入者数は243万名（CSデジタル放送における加入者数を含む）を見込んでおります。
- b. 連結の業績見通しは、営業収益668億円、営業利益29億円、経常利益38億円、当期純利益20億円、また単体の業績見通しは、営業収益618億円、営業利益20億円、経常利益27億円、当期純利益14億70百万円を予定しております。

株式会社WOWOW 代表取締役社長 廣瀬 敏雄

平成19年3月期（2006年度）中間決算概況表

平成18年11月14日

株式会社WOWOW

1. 加入状況

(単位：名)

項 目	平成19年3月期(2006年度)中間期			平成19年3月期(2006年度)予想		
	実 績	前年同期実績	前年比	予 想	前年度実績	前年比
新規加入者数	202,361	135,377	149.5%	—	285,683	—
解約者数	196,025	179,869	109.0%	—	364,490	—
正味加入者数	6,336	△44,492	—	—	△78,807	—
累計正味加入者数	2,388,679	2,416,658	98.8%	2,430,000	2,382,343	102.0%
(内、アナログ)	1,404,423	1,713,432	82.0%	1,260,000	1,549,648	81.3%
(内、デジタル)	984,256	703,226	140.0%	1,170,000	832,695	140.5%

2. 連結決算

(単位：百万円)

項 目	平成19年3月期(2006年度)中間期						平成19年3月期(2006年度)予想			
	予 想	実 績	収入比	前年同期実績	増減	前年比	予 想	収入比	前年度実績	前年比
営業収益	33,300	33,313	100.0%	32,002	1,311	104.1%	66,800	100.0%	64,113	104.2%
営業利益	2,000	2,040	6.1%	1,714	326	119.0%	2,900	4.3%	2,518	115.2%
経常利益	2,500	2,516	7.6%	873	1,642	288.0%	3,800	5.7%	2,346	162.0%
中間(当期)純利益	1,400	1,392	4.2%	535	857	260.3%	2,000	3.0%	1,815	110.2%

3. 単体決算

(単位：百万円)

項 目	平成19年3月期(2006年度)中間期						平成19年3月期(2006年度)予想			
	予 想	実 績	収入比	前年同期実績	増減	前年比	予 想	収入比	前年度実績	前年比
営業収益	30,800	30,885	100.0%	30,725	160	100.5%	61,800	100.0%	61,366	100.7%
営業利益	1,500	1,469	4.8%	1,697	△227	86.6%	2,000	3.2%	2,243	89.2%
経常利益	1,900	1,898	6.1%	1,748	150	108.6%	2,700	4.4%	2,668	101.2%
中間(当期)純利益	1,120	1,075	3.5%	736	339	146.1%	1,470	2.4%	1,440	102.1%

注) 上記2. 連結決算、3. 単体決算表中の予想数値は、本年10月25日公表数値を表記しております。